



研究誌「瑞星」第14号 — 令和6年12月発刊予定 —

ウェルビーイングを育む学校保健活動の推進

— 調和と協調を意識した取組 —

保健教育

今回は、実践事例集「保健教育」の一部を紹介します。発行をご期待ください。

第14号の実践事例集のキーワードは、「調和」と「協調」です

<幼稚園>

○健康的な食生活の定着を目指した個別の保健指導

肥満度が中等度～高度の幼児に対して、保護者に食事内容を記録してもらい、評価シートを作成して個別指導した実践です。

<中学校>

○自ら生活習慣を見つめなおし、維持・改善を目指す生徒の育成

— 一人一人の実態に合わせた指導のために —

「すくすく習慣シート」を活用し、自分で決めたルールで生活することで生活習慣を見つめ直す取組で、個別指導、学級活動や関係者と協働した実践です。

<小学校>

○自分も人も大切にできる気持ちを育てる「からだ・心・いのちの学習」

— ウェルビーイングにつながる学びを意識して —

6年間の系統的なカリキュラムの中、助産師と妊婦さんとのふれあい体験の実施、保護者との話題の共有、担任との授業などの4年生対象の実践です。

<高等学校>

○保健だよりを活用した保健教育

— 月経を自分事として捉える情報発信の仕方について —
年間5回の保健だよりの発行の他に、ICT機器を活用した動画配信やアンケートを利用して知識の定着や悩みを把握できるようにした実践です。

○生涯を通し、自ら歯と口の健康づくりに取り組む基盤の育成

食育、足育、息育、横断的な授業、地域との連携など多角的なアプローチの結果、未処置歯の保有者数が減少した実践です。

○哲学対話というにもほどがある！

— 哲学対話で先生も生徒も対等で「らく〜」に生きる —
哲学対話は答えが一つではない問いを考え、正解を求めず話し合う活動です。活動を通して生徒も養護教諭も変容していった実践です。

<特別支援学校>

○発達段階に応じた学びを通して — 自分・他者・社会とのかかわりを大切にしたい保健教育 —

保健教育の個別ファイルを作成し、日常の児童生徒の指導と初経指導・二次性徴、薬物乱用など12年間の系統的な指導の実践です。